平成２４年度

学力向上を図るための全体計画

小３４練馬区立石神井小学校

関係法規等
・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法、地方公務員法
　管理運営に関する規則
・学習指導要領
・東京都教育目標
・練馬区教育目標 他

学校教育目標
人間尊重の精神を基調として、心身共に健康で知性と感性に富み、調和のとれた人間性豊かな児童の育成と、将来、国際社会の中で信頼と尊敬を得る日本人の育成を目指して次の目標を設定する。

◎よく考える子　　○思いやりのある子
○根気強くやりぬく子　　○元気な子

目指す学校像「地域に学び、地域を愛し、子どもが輝く学校」
１　安全・安心して学べる学校
２　主体的に学び生きる力をはぐくむ学校
　（①確かな学力の向上・充実　②　豊かな心③　健康な身体）
３　地域に学び地域を愛する学校
　（①情報発信の工夫と努力　②地域・保護者との連携　③信頼される学校づくり）

児童の実態
・全体的に明るく素直である。
・校庭等で体を動かし元気に遊ぶことを好む。

教師の願い
・学習・生活の規律を定着させたい。
・自主的なかかわり合いや自己表現力・自己肯定感を育成したい。

保護者・地域の願い
・基礎・基本の定着
・児童が楽しく安心して通える学校

各教科の指導の重点
・基礎・基本を重視し、個に応じた指導、評価を生かした指導、少人数指導の充実を図り、児童一人一人に確かな学力を身に付けさせる授業を展開する。
・授業時数の確保を図る。教育内容の吟味・精選をする。
・学習スタンダードを用いて、学習の定着の素地を育成する。
・児童自らが目標をもって問題解決に向かう学習過程の設定
・評価規準、評価計画を基に形成的評価を生かした指導の改善を図る。

総合的な学習の時間の指導の重点
・地域の特色を生かすとともに探究的・共同的な学習を通して、児童が主体的に活動できるような単元を設定し、4年間を通して系統的・発展的に指導する。
・地域人材・施設リストを作成するとともに、それらを活用した学習内容の共有化(職員室に掲示板設置)を図る。

進路指導の重点
・人権尊重の精神を基調とし、児童一人一人が個性や特性を伸ばし、各教科とキャリア教育の関連を図る。
・興味・関心に応じて自己実現を図ることができるようにする。
低学年:すきなことを見つけよう
中学年:自分や友達のよさをみつけよう
高学年:夢や希望にむかって挑戦しよう

本校における「確かな学力」
①　基礎的・基本的な知識・技能の習得
②　知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、その他の能力
③　主体的に学習に取り組む意欲や態度

学習指導要領に示された基礎・基本

石小スタンダード

学習スタンダード
・始めのあいさつ
・学習のめあての発表
・挙手の仕方
・指名されたときの発言の仕方
・話し方、聞き方
・ノートの取り方
・学習用具のきまり
・持ち物、下敷き
・終りのあいさつ
・学習のふりかえり

教師の構え
・環境整備
・教材・教具の準備
・学習の流れの確認
　（発問、児童の反応）
・評価計画作成
・児童の理解を深める指導法の工夫
・児童の思いや発想を大切にした展開
・時間の厳守
・板書
・児童の学習内容定着の確認

道徳教育の指導の重点
道徳的心情、判断力、実戦意欲と態度を高めるとともに、人権尊重、生命尊重の精神を育てる。

特別活動の指導の重点
・温かい人間関係を築き、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性や社会性を育成することができるように指導する。
・集団の一員としての自覚をもち、児童の個性や能力の伸長、協力の精神を養うことができるよう指導する。
・なすことによって学ぶ活動を通して、自主的、実践的な態度を身に付けられるように指導する。
・２学年合同遠足や異学年交流等を通して、思いやりや役割意識、自己の成長の自覚を促す。

生活指導の重点
基本的生活習慣を身に付け、規則正しい学校生活を送ることができる児童を育てる。
・「きびしく」「温かい」生活指導
・人を思いやり、人に迷惑をかけない生活習慣づくり

体力向上を目指す指導の重点
・新体力テストの実施と分析
・保健・食育指導の推進
・全校によるカードを使った縄跳び月間やマラソン月間の実施
・運動委員会による運動の紹介・アドバイス（縄跳び・鉄棒）

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・生活科･総合的な学習の時間の指導の改善・工夫を図る。地域の中で生きる力をはぐくみ、自ら学ぶ探究的な学習を推進する。 ・体験的・問題解決的な学習の重視、導入の仕方や教材教具の工夫をする。 ・少人数指導等、学習形態・指導方法を工夫する。 ・発展的な学習、補充的な学習を取り入れていく。	・１単位時間の弾力的な運用を行い、基礎・基本の充実を図る。 ・授業時数を確保し、繰り返し学習を　取り入れ基礎・基本の定着を図る。 ・言語活動の充実の推進のために、石神井図書館、図書館管理委員等と連携を図り、学校図書館の活用や環境を整備し、情報収集・選択・活用の能力を育成する。	・「地域に学び、愛し、ともに生きる子ども」を研究主題とし、生活科・総合的な学習の時間の授業改善、年間計画・単元計画の改善を図る。 ・年６回の研究授業を通して、本研究2年次としての成果と課題を確認するとともに、校内体制を工夫し、全国生活科総合的な学習教育研究協議会　東京大会の会場校として、本校の研究を広く発信できるようにする。	・毎時間のねらいを明確にして、そのねらいを達成するための評価と指導の一体化を図る。 ・学習や生活について、児童一人一人の成長を振り返りカードに記入し、個人面談等で保護者に伝える。 ・児童の生活アンケートをもとに、実態把握・分析を行ない、指導方法の改善を図る。	・生活科・総合的な学習の時間を中心に地域の自然環境や公共施設を活用したり、地域の方から話を聞いたりし、地域に学ぶ活動を意図的・計画的に行う。 ・石神井図書館と連携を図り学校図書館活用や環境整備を行う。 ・年２回の学校公開と年１回の道徳授業地区公開講座を実施し、本校の教育活動を公開する。 ・年３回の学校関係者評価を実施し次年度の教育活動に生かす。